

大会案内

会期

2009年11月27日[金]～29日[日]

会場

筑波大学 大学会館 (〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1)

共催

筑波大学大学院生命環境科学研究科

受付

- 27日は11:30から、28日と29日は8:30から開始します。
- 「大学会館前」バス停を降りてすぐの「総合交流会館」が受付になります。
- 当日参加の方は受付にて大会参加費（一般6500円、学生5500円）を納入してください。
- 懇親会につきましても、定員内まで当日申し込みも受け付けます。会費は一般7000円、学生6000円です。

ポスター発表

- 今回は2会場に分かれており、それぞれ28日のお昼休みに貼り替えとなります。
- A会場は総合交流会館2階の多目的ホール、B会場は大学会館本館3階の特別会議室です。
- コアタイムは設けませんので、各自で説明する時間帯を掲示するなど工夫してください。
- ポスターを貼り付けるための画鋏はこちらで用意しますが、他の文具が必要な方は各自でご用意ください。

映像紹介

- 28日14:00-15:30に大学会館本館2階のマルチメディアルームにて行ないます。
- 発表者は、当日の13:00までに大会本部（大学会館本館3階第6会議室）までメディアをお持ちください。PC用のデータファイルはフラッシュメモリー（USBメモリー、SDカード等）またはCDを受け付けます（PC用のDVDは対応を保証できません）。
- 利用可能な機器はPCとVHSビデオデッキ、DVDビデオデッキです。事前にお申し出のない機器は利用できません。事務局にてテスト用の機器を用意しますので、各自で動作確認をお願いします。
- 発表は、質疑応答3分を含めて15分です。PCファイル以外は発表終了後にお返ししますので、忘れずにお持ち帰りください。

ラウンドテーブル

- 27日と29日に計4つのラウンドテーブルが開かれます。
- 会場は大学会館本館3階の第3会議室（A会場）と第4会議室（B会場）です。

公開シンポジウム

- 27日の16:30から大学会館3階ホールにて「Ethology Meets Robotics — 動物行動学とロボット工学のホットな出会い」を開催しますので、ふるってご参加ください。

懇親会

- 11月28日（土）18時より、大学会館1階のレストラン「プラザ」にて行ないます。

総会

ー28日16:00から大学会館3階ホールにて開催します。会員の方はできるだけご参加ください。

休憩室

ー大学会館本館3階の第1会議室に設けます。ポスターB会場のとなりです。27日(金)の11:30から29日(日)の13:30までご利用可能です。

託児所

ー大学会館本館4階の和室に託児所を設けます。
ー11月27日(金)13:00~19:00、11月28日(土)9:00~18:00、11月29日(日)9:00~12:00の間、開設の予定です。事前に利用申し込みをされた方のみ利用可能です。

機器展示・図書販売

ー大学会館本館3階のホール前ホワイエにて調査研究機器の展示、同じく2階の講堂前ホワイエにて図書販売を行ないますので、ご利用ください。

クローク

ー大学会館本館3階の第2会議室に設けます。
ー利用時間は27日(金)11:30-19:00(シンポジウム終了時まで)、28日(土)8:30-18:00(懇親会開始前まで)、29日(日)8:30-15:30です。

宿泊

ー大会事務局では宿泊の斡旋はしておりません。つくば市内および土浦市の宿泊施設は以下のホームページをご覧の上で、各自予約して下さい。

①つくば市観光協会 <http://www.kanko-tkb.net/index.php>

*筑波山と筑波大学は離れていますので、筑波山近辺に宿泊をする場合は宿泊申し込み時に交通について確認して下さい。

②土浦市観光協会 <http://tutiura.727.net/>

*土浦駅から筑波大学まではバスで30分程度かかります。

会場(筑波大学大学会館)までの交通の詳細

ー会期中の全ての行事が筑波大学大学会館(本館A棟・C棟・総合交流会館)で行なわれます。
ー東京駅から会場までの所要時間は、下記の①の場合、乗り換えも含めて約1時間30分です。
ー詳しくは、4ページのアクセスマップか、筑波大学のウェブページ内のアクセス案内をご覧ください(http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html)。

①つくばエクスプレスを利用の場合(このルートが最速)

ー秋葉原駅からつくばエクスプレスで終点つくば駅下車、つくばセンターから大学中央行の路線バス、または筑波大学循環バス(右回りと左回りがります)に乗車、大学会館前下車。

②JR常磐線を利用の場合

ー常磐線土浦駅下車、西口より筑波大学中央行きの路線バスに乘車、大学会館前下車。
ー常磐線ひたち野うしく駅下車、東口よりつくばセンター行き路線バスに乘車し、終点で乗り換えて大学会館まで来る方法もあります(朝は大学中央行の直通バスが数本有ります。関東鉄道のHPでご確認下さい)。いずれの駅で降りた場合も路線バスだけで30分程度かかります。

③東京駅より高速バスを利用の場合

ー東京駅八重洲南口5番乗り場より高速バス「特急つくば号」筑波大学行乗車、大学会館前下車。つくばセンター止まりの場合は、終点つくばセンターから路線バスに乗り換え。

④羽田空港より高速バスを利用の場合

ー羽田空港よりつくばセンター行高速バス乗車、終点つくばセンター下車、つくばセンターから路線バスに乗車、大学会館前下車。

⑤つくばセンターよりタクシーを利用の場合

ー「筑波大学の大学会館まで」と指示して下さい。つくばセンターバスターミナルにはタクシー乗り場があります。

その他のご注意

- ー特に駐車場は用意してありませんので、公共交通機関をご利用下さい。
- ー大学内の食堂は、土曜日・日曜日は営業していませんので、周辺の食堂をご利用願います。
- ーつくば市内の宿泊施設はつくばセンターから離れているところもありますのでご注意ください。

大会事務局（問い合わせ先）

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 持続環境科学専攻 保全生態学研究室

実行委員長 渡辺 守

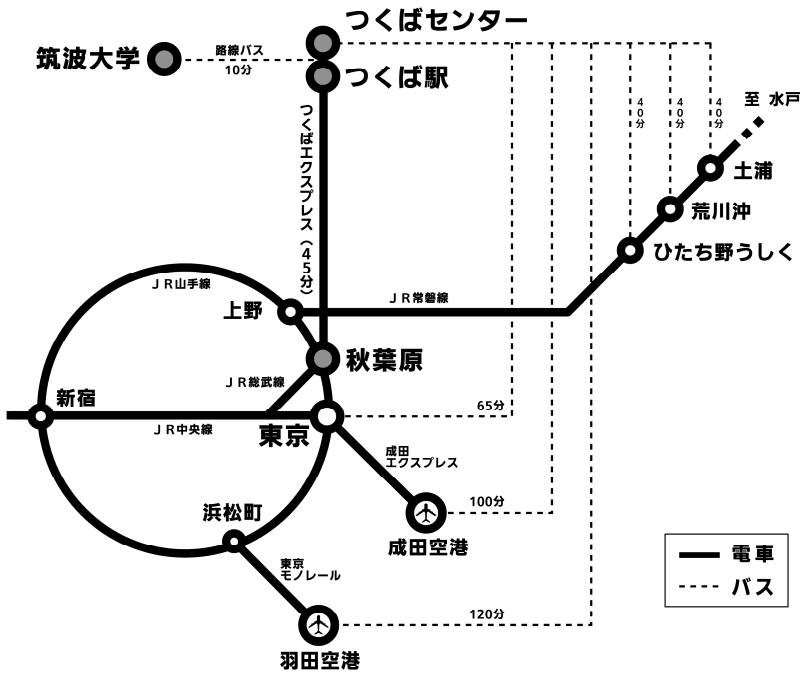
Tel. 029-853-7282

E-Mail: jes2009@envr.tsukuba.ac.jp

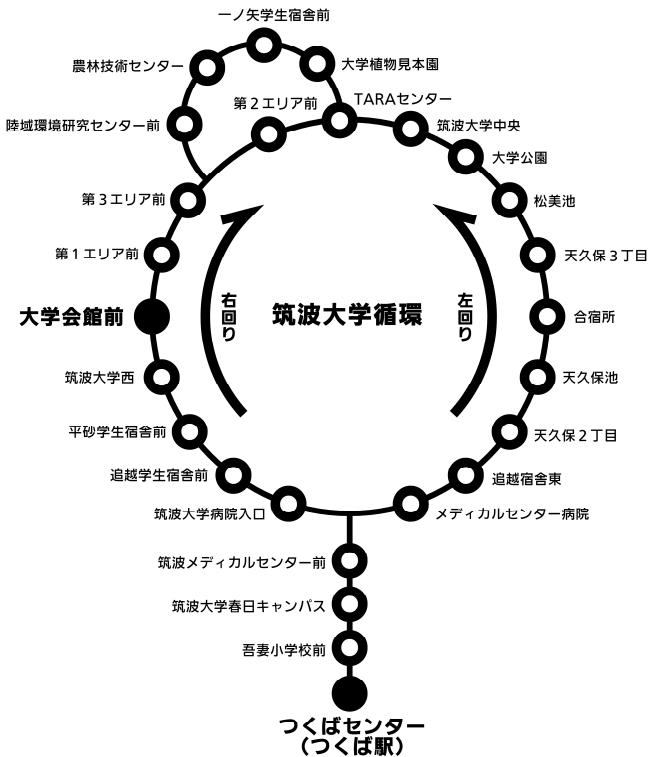
* 大会期間中は大学会館本館 3 階第 6 会議室が大会事務局となります。

アクセスマップ

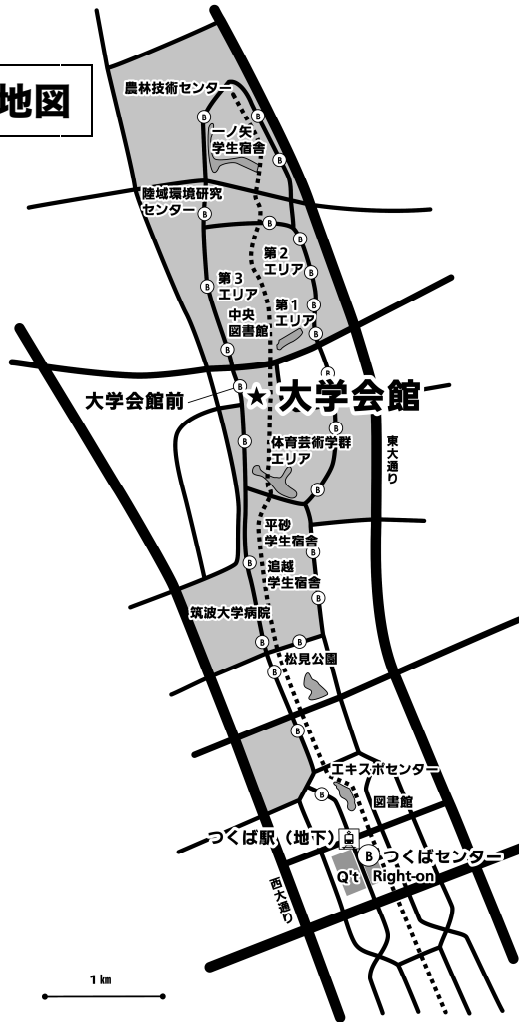
■ 東京からつくば駅（つくばセンター）



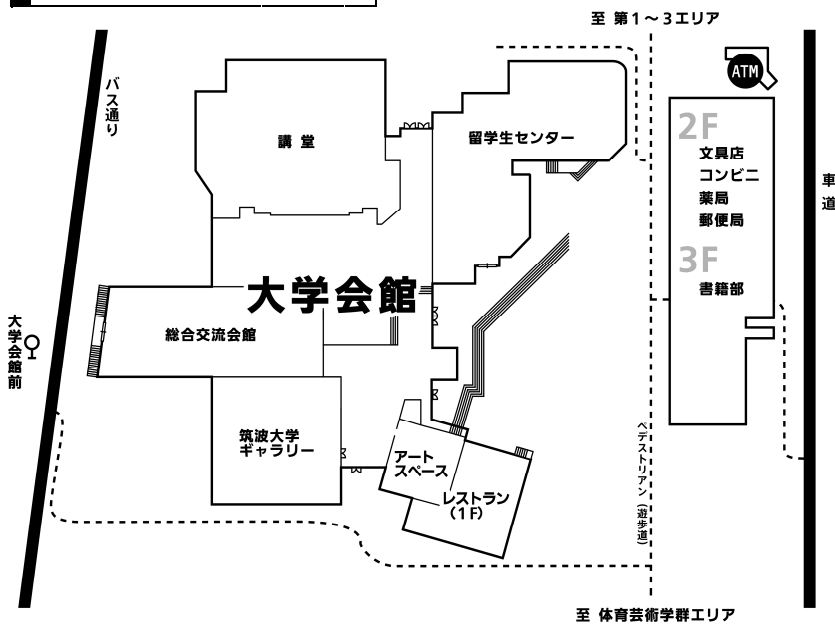
■ つくば駅（つくばセンター）から筑波大学学生会館



筑波大学周辺地図



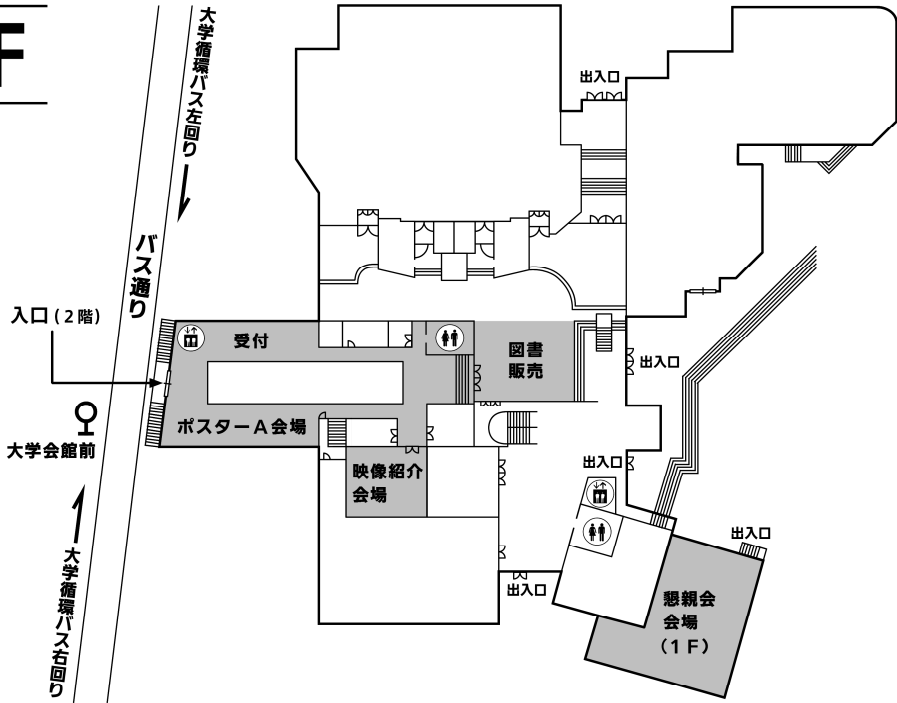
学生会館周辺地図



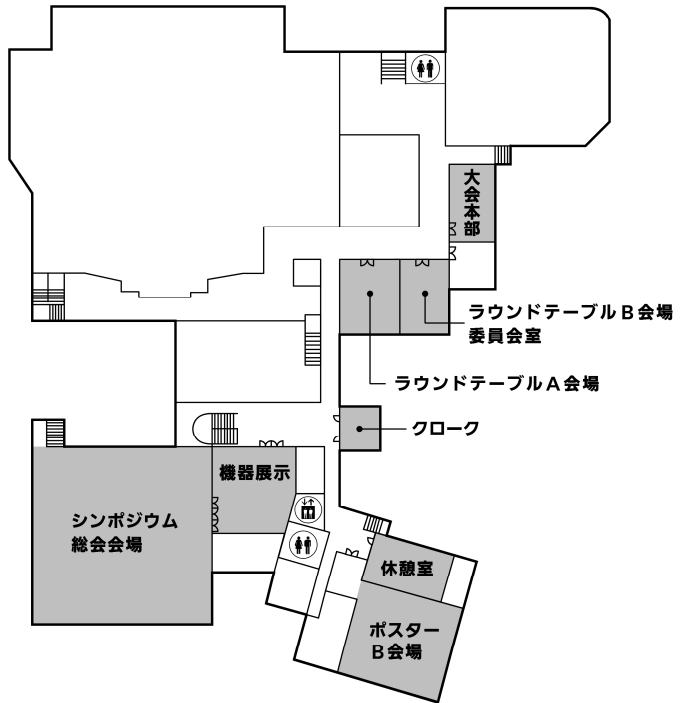
会場案内

大学会館平面図

2F



3F

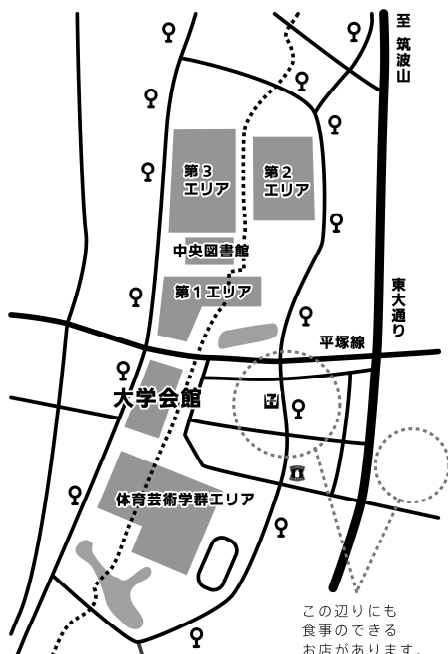


大会日程



昼食情報

- 第1エリア**
食堂
小食堂
- 第2エリア**
食堂
小食堂
パン屋
- 第3エリア**
フードコート
学生食堂
パン屋
- 大学会館周辺**
食堂 (懇親会会場)
コンビニ
銀行・郵便局・ATM
- 体育芸術学群エリア**
学生食堂
小食堂
- 中央図書館**
スターバックスコーヒー



大学内の食堂は、土曜日・日曜日には営業していませんので、周辺の食堂をご利用願います。詳しくは、大会当日に配布する資料をご覧ください。

公開シンポジウム

Ethology Meets Robotics

動物行動学とロボット工学のホットな出会い

企画者 辻 和希（琉球大・農）

趣旨

アトムやガンダムのようなアニメの世界に限らず、日本は実物のロボット研究でも世界最先端を誇っています。ロボットといえばヒトや動物をまねて設計されたものがよく想起されますが、実際、bioinspired robotics という分野では、生物のデザインからロボットの設計思想を探るべく長年研究が行われています。ロボットを作るために動物を分析することは、当然ですが動物そのものの深い理解に繋がることとなります。実際、動物行動学者が普段行っているのと似たような研究が「隣の世界」の工学分野でも進められていることは日本ではあまり知られていません。それどころか、今シンポで紹介するサイボーグカイコや粘菌ロボットのように、生物学者の常識的発想からは想像できないアプローチが行われ、生物学者が従来なし得なかったような生物学上の成果もあがっています。そこでこのシンポジウムではロボット工学技術を借りた「生物の研究」を幾つか紹介します。一般の方には純粋に生物ロボットの研究風景を楽しんでいただき、行動学会会員にはロボット工学が動物行動学といかに相性がいいか理解してもらえれば幸いです。

プログラム

- | | | | |
|---|------------------------|----------|-------------------|
| 1 | はじめに | 5 min | 辻 和希（琉球大・農） |
| 2 | 移動知研究の目指すもの | 40 min | 浅間 一（人工物工学研究センター） |
| 3 | 昆虫とロボットの融合で探る環境適応能力 | 50 min | 神崎亮平（東大・先端研） |
| 4 | 真正粘菌から探る大自由度を巧みに操るからくり | 50 min | 石黒章夫（東北大・システム工学） |
| 5 | 総合討論 | 5-10 min | |

日時

11月27日 16:30-19:00

場所

筑波大学 大学会館 ホール

本シンポジウムには一般の方でも無料で参加いただけます。受付での参加登録は不要です。

ラウンドテーブル

ラウンドテーブル①

雌雄同体という生き方2

企画者 中嶋康裕（日大・経済）

日 時 11月27日（金）17:00-19:00

場 所 A会場（第3会議室）

性転換現象は、「成長に伴う繁殖成功の増加曲線が雌雄で異なるとき、両者の交点で性を変えることが有利になる」とするサイズ有利性モデル（SAモデル）によってうまく説明される。このモデルは行動生態学の教科書に載るほどとなったが、その結果、「性転換はSAモデルで十分に説明され、もう研究の余地はない」と誤解されることがある。性転換する動物を実際に研究していると、SAモデルだけでは説明できないと感ずることがあり、特に♂から♀にも、♀から♂にも双方向に性転換する動物では多くの疑問が残されている。そこで今回は、典型的な雌性先熟魚と考えられてきたベラ類における双方向性転換がどのように起こり、どう説明されるのか（中京大・桑村哲生）、どちらの方向にもわずかに数日で性を変えられるベニハゼ類の性転換はなぜ有利になると考えられているのか（総研大・澤田紘太）、同時雌雄同体の進化モデルとSAモデルの関係はどうなっているのか（三重大・原田泰志=予定）について紹介し、性的多様性の進化についての理解を深める機会としたい。

ラウンドテーブル②

動物行動学の新しいアプローチ：構成論的手法による社会性昆虫の理解

企画者 土畑重人（東京大学）・藤澤隆介（八戸工業大学）

日 時 11月29日（日）10:00-12:00

場 所 A会場（第3会議室）・B会場（第4会議室ーデモンストレーション用）

動物行動学は、行動の生理的基盤を研究するにしても、あるいはその適応的意義を研究するにしても、実際の生物を材料として研究を行うことをその本懐としている。このアプローチはきわめて多くの成果を挙げてきたが、生物システムの持つ複雑さ・冗長さゆえに、核心となるメカニズムに迫るのが難しい局面に行き当たることも多いであろう。このような場合に有効かもしれない方法論として、「構成論的アプローチ」に着目したい。これは、注目する現象に必要と思われる要素を自ら「構成」し、それを（計算機上やロボットにおいて）動作させてみることで、当該の現象を再現、理解しようとする手法である。本ラウンドテーブルでは、社会性昆虫の行動研究を具体例に、構成論的アプローチとは具体的にいかなるものであるかを紹介し、それらが生物に立脚した従来のアプローチといかに相補的であるかを描き出すことができればと考えている。会場では、「集団採餌」を行う群ロボットの实演も行う予定である。

ラウンドテーブル③

近親交配研究の最前線

企画者 山本宇彦（九州大学・理・生態科学）

日 時 11月29日（日）13:00-15:00

場 所 A会場（第3会議室）

近親交配を行った場合に個体の適応度にどのような影響があるかは、近交弱勢による子供の適応度の低下というマイナスの効果と、個体自身に加えて交配相手からも自身の遺伝子のコピーが伝わるというプラスの効果とのバランスによって決まる。この両者のバランスの効果は、定量化が可能であり、相手との血縁に応じてどう行動すべきなのかを予測することができる。しかし、従来の研究ではこの視点はほとんど取り入れられていない。そのため、血縁関係に注目した交尾行動の研究はまだ未開拓である。このことは新しい現象が見つかる可能性を秘めており、交尾行動研究に貢献すると期待される。今回のラウンドテーブルでは、血縁に着目した動物の行動や反応について、様々な分類群を対象に行った研究から得られる最新の知見をご紹介します。

ラウンドテーブル④

ヒトはどのように進化してきたか

企画者 松本晶子（沖縄大学人文学部）

日 時 11月29日（日）13:00-15:00

場 所 B会場（第4会議室）

ヒトはどのような動物なのだろうか？また、ヒトはどのように進化してきたのだろうか？人類進化の研究現場では、化石の発見や、霊長類の行動戦略についての新しいデータ、通文化的な規則性を明らかにする実験的研究など、新しい発見が続いている。これらは人間行動の進化を考えるうえでも重要な基盤となるものだ。しかし、広い分野をカバーし、新しい発見について更新した和書がなかったことから、私たちは教科書“*How Humans Evolved*”の翻訳に取り組んでいる。このラウンドテーブルの目的はふたつある。ひとつは、この本を構成する「進化理論」、「霊長類の行動生態」、「化石」、「人間行動」の4つのパートの要約をそれぞれの専門家がおこなうとともに、コメントを加え、人類進化研究がどのように進んでいるのかを紹介することである。ふたつめとして、ヒトとは何か、という問いにはさまざまな分野からの取り組みが必要である。幅広い分野の研究者が集まる動物行動学会において、参加者とのあいだでの共同研究の可能性を探りたい。

映像紹介

日時 | 11月28日 14:00-15:30

場所 | 2階のマルチメディアルーム

- V-1 14:00-14:15 顕著な性二形性を示すダキクモヒトデ *Ophiodaphne formata* 雌雄のペアリング行動
○富永英之（福井県立武生高校）
- V-2 14:15-14:30 ヒメイカのメスによる精子排除行動と精子摂食行動
○佐藤成祥（北大院環境）・春日井 隆（名古屋港水族館）・宗原弘幸（北大 FSC）
- V-3 14:30-14:45 雛？ 卵？ 担ぎ分け？ ージュウイチの雛ー
○田中啓太（理研 BSI, 学振 PD）・矢野晴隆（株式会社 元）・上田恵介（立教大・理・生命理学）
- V-4 14:45-15:00 つがい相手に給餌するアゴヒゲペンギン
○森 貴久（帝科大）・國分互彦（総研大）・高橋晃周（極地研）
- V-5 15:00-15:15 ヤマネの樹上行動のしくみ
○湊 秋作（やまねミュージアム）・岩淵真奈美（やまねミュージアム）・饗場葉留果（やまねミュージアム）・増田 順（NHK）・牟田俊大（NHK）
- V-6 15:15-15:30 ボルネオオランウータンにおける日常的な河川の横断について
○山崎彩夏（東京農工大）・久世濃子（京都大）・森 朝子（東京工業大）・Titol Peter Malim（サバ野生生物局）・Henry Bernard（サバ大）・武田庄平（東京農工大）

ポスター発表 | 前半A

日時 | 11月27日午後(13:00-16:30)と28日午前(09:00-12:00)

場所 | A会場 (2階 総合交流会館)

- A1-01 近交弱勢が弱いと近親交配を回避し、強いと近親交配するアリモドキゾウムシ
○栗和田 隆・熊野了州・城本啓子 (沖縄防技セ・琉球産経)・原口 大 (沖縄防技セ)
- A1-02 近交弱勢をともなう局所的配偶者競争における性比と繁殖集団サイズの進化
○山内 淳 (京大・生態研センター, JST・さきがけ)・小林 豊 (京大・生態研センター)
- A1-03 When virgins give birth to the babies: 単為生殖の存在が性配分戦略に与える影響
○川津一隆 (京大院・農)
- A1-04 サッポロフキバツタにおける cryptic female choice に基づく交尾後・受精前の生殖的隔離
○齋藤毅一郎・菅野良一・秋元信一 (北海道大学・農・昆虫体系)
- A1-05 甲虫におけるオス限定の武器形質の発現と遺伝子座内性的対立
○原野智広 (九大院・理・生態)・岡田賢祐・中山 慧・宮竹貴久 (岡山大院・環境・進化生態)
- A1-06 ゲンジボタル *Luciola cruciata* における、オスによる「求愛メス」の認識II
○高津英夫 (愛知ホタルの会)・吉村 仁 (静岡大学・創造院)
- A1-07 イトヨ種群における営巣に関連した繁殖戦略
○久米 学 (自然共生セ)・森 誠一 (岐阜経済大)
- A1-08 長期的に一夫一妻を維持するイシヨウジにおける配偶者認識
○曾我部 篤 (広島大・院・生物圏)
- A1-09 ツバメの雌はなわばりの質で雄を選ぶ
○長谷川 克 (筑波大)・新井絵美 (上教大)・渡辺 守 (筑波大)・中村雅彦 (上教大)
- A1-10 サラサウミウシの使い捨てペニスの補充方法
○関澤彩真・志賀向子 (大阪市大・院理)・中嶋康裕 (日大・経済)
- A1-11 カミキリモドキのオスは発達した後脚腿節を何に使うのか?
○小汐千春 (鳴教大)・高嶋 宏 (鳴教大)・富川明日香 (鳴教大)・小口洋平 (鳴教大)・立田晴記 (琉球大・農)・工藤慎一 (鳴教大)
- A1-12 ヨツモンマメゾウムシにおける戦略的射精と資源獲得競争タイプとの関係
○香月雅子 (岡大院・進化生態)・徳永幸彦 (筑波大・生命環境)・宮竹貴久 (岡大院・進化生態)
- A1-13 アゲハ類の雄における雌の質に対応した注入物質量の調節
○佐々木那由太・渡辺 守 (筑波大・院・生命環境)
- A1-14 クモハゼ雄の代替繁殖戦術: スニーカー間競争が戦術転換に与える影響
○兼子隆士 (長崎大院・生産研)・塩川 麗 (長大・水産)・竹垣 毅 (長崎大院・生産研)
- A1-15 館山湾に生息するペラ科オハグロペラ *Pteragogus aurigarius* の雌の繁殖戦術
○木原聡美・清水庄太・須之部友基 (東京海洋大学館山ステーション)
- A1-16 フタスジリュウキュウスズメダイの可変的な複婚社会の維持機構~成長の性差に注目して~
○鹿島 傑・坂井陽一・橋本博明 (広島大院・生物圏科学)
- A1-17 館山湾に生息するオハグロペラ雄における繁殖行動の多様性について
○清水庄太・木原聡美・須之部友基 (東京海洋大学 館山ステーション)
- A1-18 セキセイインコは第三者間のつがい関係を理解するか?
○一方井祐子・伊澤栄一・渡辺 茂 (慶應大)

- A1-19 **チンパンジーにおける第一位オスの繁殖成功**
 ○井上英治（京都大学）・井上-村山美穂（京都大学）・高崎浩幸（岡山理科大学）・西田利貞（日本モンキーセンター）
- A1-20 **奄美大島のホオズキカメムシは落ち葉に好んで産卵する**
 ○中嶋祐二・藤崎憲治（京大院・農・昆虫生態）
- A1-21 **寄生蜂 *Heterospilus prosopidis* における宿主探索行動の解析**
 ○阿部真人（東京大学）・嶋田正和（東京大学）
- A1-22 **食草・イヌガラシの形態に依存したモンシロチョウ属の産卵位置選択**
 ○恩田裕太・渡辺 守（筑波大・院・生命環境）
- A1-23 **グッピーにおける女の適応的な産子調節**
 ○佐藤 綾・狩野賢司（東京学芸大学・連合学校教育学）
- A1-24 **ワヌケトラギスのメスによる性転換の誘発に関与する幼魚と成魚の社会関係**
 ○金友勇馬（広島大・院・生物圏）・水野将暢・坂井陽一・橋本博明
- A1-25 **糸で巣内を清掃する社会性ハダニ**
 ○金澤美季・齋藤 裕・佐原 健（北海道大学農学院）
- A1-26 **フタボシツチカメムシの雌親が孵化直前に振動するのはなぜか？**
 ○向井裕美（佐賀大・農）・弘中満太郎（浜松医大・生物）・野間口真太郎（佐賀大・農）
- A1-27 **ハマベハサミムシの親は給餌量を調整しない**
 ○鈴木誠治（長岡技大）
- A1-28 **共同繁殖種コモンマーモセットの子育て期における父親の体重変化**
 ○立田委久子（総研大，理研 CMIS）・杵掛展之（総研大）・川崎章弘（理研 CMIS）・横山ちひろ（理研 CMIS）・尾上浩隆（理研 CMIS）・長谷川真理子（総研大）
- A1-29 **カワヨシノボリの雄における巣入口の塞ぎ：卵保護と追加産卵とのトレードオフ**
 ○安田裕樹・オマーミン・幸田正典（大阪市立大学理院）
- A1-30 **ネットブックでする動物行動学（鷲編）**
 ○益子美由希・徳永幸彦（筑波大・生命共存）

ポスター発表 | 前半B

日時 | 11月27日午後(13:00-16:30)と28日午前(09:00-12:00)

場所 | B会場 (3階特別会議室)

- B1-01 3世代共存集団における利他行動の進化遺伝モデル**
○関 元秀 (東京大学)
- B1-02 誰もいねえからやっか? -働かないハタラキアリは働くか?-**
石井康規・○長谷川英祐 (北大院・農・生物生態体系)
- B1-03 え〜、でもやっぱ疲れるしい〜 -働かない働きアリはなぜ働かないのか?-**
○多田紘一郎・長谷川英祐 (北大院・農・生物生態・体系)
- B1-04 社会性アブラムシにおける繁殖終了後の利他行動**
○植松圭吾 (東大院・総合文化)・沓掛磨也子・深津武馬 (産総研)・柴尾晴信・嶋田正和 (東大院・総合文化)
- B1-05 多巣性のアリにおける巣間の距離が攻撃性に及ぼす影響**
○小松一磨・小林紀絵・山口勇氣 (新潟大・教育)・岩西 哲 (みなくち子どもの森自然館)・工藤起来 (新潟大・教育)
- B1-06 フタモンアシナガバチの創設メスの体サイズが営巣活動に及ぼす影響**
○草間淑之 (新潟大・教育)・白井明日華 (新潟大・教育)・工藤起来 (新潟大・教育)
- B1-07 蜜の利用可能量がフタモンアシナガバチの創設メスの営巣活動に及ぼす影響**
○白井明日華・草間淑之・工藤起来 (新潟大・教育)
- B1-08 底で暮らすイカの繋がり：トラフコウイカにおけるソーシャルネットワーク**
○池田 譲・瀬川明宏 (琉球大学)
- B1-09 ソーシャルネットワーク分析によるアオリイカの群れ内個体間関係の解明**
○杉本親要 (琉球大学大学院)・池田 譲 (琉球大学)
- B1-10 キンカチョウヒナにおける社会行動の発達と社会行動に関わる脳部位の発達の比較**
○池淵万季 (ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト・理研脳センター)・南部菜奈恵 (理研脳センター)・岡ノ谷一夫 (ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト・理研脳センター)
- B1-11 野生アマビスヒヒの遊動と群れ間関係にみられる季節性**
○松本晶子 (沖縄大学)・Rync A. Palombit・Angela van Rooy (Rutgers University)
- B1-12 病原菌に対する可塑的な行動としてのグルーミング行動**
○奥野正樹 (京大院・農・昆虫生態)・辻 和希 (琉大・農)・藤崎憲治 (京大院・農・昆虫生態)
- B1-13 コシジロキンパラの歌の地理的変異とその成立要因 -遺伝距離との関連性-**
○香川紘子 (理研・東大)・山田裕子 (理研・千葉大)・林 端興 (台湾特有生物研究所)・長谷川寿一 (東大)・岡ノ谷一夫 (理研・東大)
- B1-14 さえずりの地理的変異と種の認知：シジュウカラは別亜種のさえずりを区別するか？**
○濱尾章二 (国立科博)
- B1-15 ハシプトガラスのコンタクトコール発声頻度に影響する環境要因は何か？**
○近藤紀子 (慶應大学社研、J S P S)・伊澤栄一 (慶應大学社研)・渡辺 茂 (慶大文)
- B1-16 スナネズミの挨拶時の音声はアプローチ行動を引き起こすのか？**
○石野慎二 (同志社大院・生命医科)・小林耕太 (同志社大・生命医科)・力丸 裕 (同志社大院・生命医科、同志社大・バイオナビゲーション研究セ)

- B1-17 チンパンジーはどのように顔を見るか？
○狩野文浩（霊長研）・友永雅己（霊長研）
- B1-18 アリの飛降り
○山口 剛（千葉県立中央博物館）
- B1-19 Personality in the shallow-water octopus, *Abdopus aculeatus*, local to Okinawa, Japan
○Amy Arnett, Yuzuru Ikeda (University of the Ryukyus)
- B1-20 サンゴタツの巻きつき行動の意味を探る
○岡崎宏美（東海大・海洋）・鈴木宏易（東海大海洋科学博）・赤川 泉（東海大・海洋）
- B1-21 腐肉食性オオヒラタシテムシの餌資源獲得戦略
○滝 若菜・渡辺 守（筑波大・院・生命環境）
- B1-22 千曲川上流域におけるカジカ（大卵型）の食性と餌料選択性
○棗田孝晴（千葉科学大）・鶴田哲也（中央水研）・武島弘彦（東大海洋研）・井口恵一朗（中央水研）
- B1-23 ヒメハブにおける個体レベルでの採餌の特殊化
○角田羊平（京都大学）
- B1-24 ハシフトガラスの採食行動におけるヒトの視線の影響
○柳堀直子¹・伊澤栄一¹・渡辺 茂²（1 慶應義塾大学社会学研究科, 2 慶應義塾大学文学部）
- B1-25 冷温帯のスギ林におけるオサムシ類の日常の移動
○高橋弘明・渡辺 守（筑波大・生物）
- B1-26 アマゴとカワムツの種間関係：水温と流れでどう変わるか。
○堤 健吾・石川大祐・内田拓亨・赤川 泉（東海大・海洋）・中道一彦（気田川漁協）
- B1-27 R を用いた動物個体の追跡アルゴリズム
○堀部直人・石井弓美子・嶋田正和（東大・総合文化）
- B1-28 ナミテントウの飛翔距離と歩行活動量は同じ遺伝要因に支配されるのか？
○宮竹貴久（岡大院・環境・進化生態）・世古智一（近中四農研）・中山 慧（岡大院・環境・進化生態）・高月淳一（岡大・MP コース）・三浦一芸（近中四農研）
- B1-29 ブラインドケーブフィッシュの方向転換と壁との衝突
西岡弥恵（高知女子大・生活）・増場亜弥・○種田耕二（高知大・理・生物）
- B1-30 マウスの探査行動に見られる性差について
○田中豊人（都健安研）・高橋 省（都健安研）・大石真之（都健安研）・大橋則雄（都健安研）・小縣昭夫（都健安研）
- B1-31 遠くまで飛べるのはどっち？ ～ミナミアオカメムシとアオクサカメムシの飛翔能力～
○守屋伸生・藤崎憲治（京大院・農・昆虫生態）
- B1-32 島嶼地域におけるツバメの分散行動－雌雄の差と血縁度の空間構造
○リングホーフアー萌奈美（東大・総合文化）・藤田 剛（東大・農）・長谷川寿一（東大・総合文化）
- B1-33 先んずれば花色を制す：送粉者の獲得をめぐる花種間での競争における「先客」確保の効果
○川口利奈（九州大）・大橋一晴・徳永幸彦（筑波大）・小沼明弘（農環研）
- B1-34 クロヒカゲの縄張り争いには体サイズと飛翔筋の発達が重要である
○竹内 剛（広島大学）
- B1-35 Rat defensive behaviors triggered by graded levels of partial gravity
Zeredo JL (Univ of Brasilia), Yabushita T (Tokyo Med and Dent Univ), Ishida (Tokyo Med and Dent Univ), Toda K (Tokyo Med and Dent Univ), and ○Kumei Y (Tokyo Med and Dent Univ)

- B1-36 擬死行動の捕食回避における適応性の検証 --コクヌストモドキとコメグラサシガメの場合--**
○中山 慧・宮竹貴久（岡大院環境）
- B1-37 シマヘビはツチガエルを食べることができない**
○吉村友里（九州大・システム生命・生態）・粕谷英一（九州大・理・生態）
- B1-38 冬季における小型鳥類の捕食者偵察**
○野間野史明（北海道大学環境科学院）・松島俊也（北海道大学理学研究院）
- B1-39 オオズアリの種子運搬における紛失による種子散布効果**
○大西義浩（鹿児島大学）
- B1-40 訪花昆虫種によって異なる飛行行動を利用した送粉生態学研究の可能性**
○坂本亮太・川窪伸光（岐阜大学）
- B1-41 戦前日本における結核と脚気の死亡率性差**
○磯村成利（総合研究大学院大学）・長谷川真理子（総合研究大学院大学）
- B1-42 アメリカウミザリガニはオペラント学習が可能か?: マニピュレーションタスクによる行動分析的検証**
○富菜雄介（北海道大）・高畑雅一（北海道大）
- B1-43 キクガシラコウモリの発声を支配する神経の仕組み**
○小林耕太（同志社, UCLA）・馬 傑（UCLA）・力丸 裕（同志社）・Walter Metzner (UCLA)

ポスター発表 | 後半A

日時 | 11月28日午後(13:00-17:30)と29日午前(09:00-12:00)

場所 | A会場 (2階 総合交流会館)

- A2-01 近親交配と第3の個体の影響
○粕谷英一 (九大・理・生物)
- A2-02 寄生バチ *Melittobia* における寄主内での配偶構造
○安部 淳 (静岡大学)・上村佳孝 (慶応大学)
- A2-03 集団性比に対応したグッピーの性比調節
○川越智子・狩野賢司 (東京学芸大)
- A2-04 卵に擬態したアジアイトトンボの雄の副生殖器の先端部
○田島裕介・渡辺 守 (筑波大・生命環境)
- A2-05 タガメの雌による卵塊保護雄への選好性の検証
○門司麻衣子 (京都大学)
- A2-06 アオモンイトトンボの雌の体色変化と雄による配偶者選択
○高橋佑磨・渡辺 守 (筑波大・院・生命環境)
- A2-07 南西諸島におけるススキスゴモリハダニの分布と武器形質であるオスの第1脚の相対長の地理的変異
○佐藤幸恵 (JSPS 特別研究員 PD・農環研)・望月 淳 (農環研)
- A2-08 集団組成の変動に対応したグッピーの繁殖形質の適応
○工藤宏美・狩野賢司 (東京学芸大)
- A2-09 野外におけるロウソクギンポ雌の Mate-choice copying (コピー戦略) の実証
○松本有記雄・竹垣 毅 (長崎大院・生産研)
- A2-10 ブンチョウの形態と行動における性的二型とメスの選り好み
○長谷川 愛 (東京大)・相馬雅代 (総研大)・長谷川寿一 (東京大)
- A2-11 マメコブシガニの配偶行動と雄の巨大な生殖腺
○小林 哲 (佐賀大学)
- A2-12 交尾時におけるオスカマキリのメスに対する風に反応した隠蔽的接近戦略
○渡部 宏 (近畿大学)・矢野栄二 (近畿大学)
- A2-13 ナミハダニ雄成虫は既交尾雌とも交尾する：雌雄それぞれの適応度に及ぼす影響
○奥 圭子 (中央農研)
- A2-14 メダカナガカメムシの2つのタイプの交尾器挿入は異なる機能をもつ
○洲崎 雄・宮竹貴久 (岡大院・環境・進化生態)
- A2-15 トゲズネハリアリにおける繁殖システム
○山口勇気・矢澤ひろみ・小林紀絵・小松一磨 (新潟大学・教育)・岩西 哲 (みなくち子ども森自然館)・工藤起来 (新潟大学・教育)
- A2-16 同じメスに手を出さないヒラタシテムシ
○住友宏幸・廣田忠雄 (山形大・院・生物)
- A2-17 セレベスゴチの繁殖生態について
○境田紗知子 (東京海洋大学・魚類行動生態学・須之部友基先生)
- A2-18 サンカクハゼにみられる小型放浪オスの繁殖戦略
○坪井美由紀 (広島大・院・生物圏)・坂井陽一・橋本博明

- A2-19 **カワヨシノボリでは雄のフィリアルカニバリズム（卵食）が単婚を促すか？**
○オマーミン・安田裕樹・幸田正典（大阪市立大理院）
- A2-20 **夏の日のおスネコ～非発情期の他個体との関係～**
○山本宇彦（九大・生態）・粕谷英一（九大・生態）
- A2-21 **アメンボの産卵深度へ卵寄生リスクの累積的な経験が与える影響**
○平山寛之・粕谷英一（九大・理・生態）
- A2-22 **水田で行なわれるノシメトンボの連結打空産卵と非接触警護産卵**
○須田大祐・渡辺 守（筑波大・院・生命環境）
- A2-23 **クダヤガラがホヤを吟味する理由**
○青木真知子（東海大院海洋）・赤川 泉（東海大海洋）
- A2-24 **潮汐周期とベラ科魚類の群れ産卵時刻**
○渡井幹雄・須之部友基（東京海洋大・館山ステーション）
- A2-25 **ベニハゼの双方向性転換：いつ性を変えるのか**
○澤田紘太（総研大・生命共生体進化学）・中嶋康裕（日大・経済・教養生物）
- A2-26 **雌性先熟魚サラサゴンベにおけるオスによる逆方向性転換の誘発実験—メス化のきっかけとメス機能面のコスト**
○中村和喜（広島大・院・生物圏）・稲森拓哉・門田 立・坂井陽一・橋本博明
- A2-27 **親の給餌を左右する子供の餌要求：ミツボシツチカメムシの場合**
○工藤慎一（鳴門教育大院・学校教育）・馬場成実（九大院・生防研）・向井裕美（佐賀大院・農）・弘中満太郎（浜松医大・生物）・田中啓太（理研 BSI/学振 PD）
- A2-28 **ベニツチカメムシの口針と接着物質を用いた卵塊および餌の運搬方法**
○馬場成実（九大院・生防研）・弘中満太郎（浜松医大・生物）・上野高敏（九大院・生防研）
- A2-29 **魚類における保護者の性の潜在的柔軟性—スズメダイ類に焦点をあてて**
○坂井陽一・村中 優・国吉久人・橋本博明（広島大）・中山寛美・馬場宏治（須磨水族園）
- A2-30 **ニホンハタネズミの離乳時期にみられる親子の対立**
○楠本華織（北大・農）・鈴木信彦（佐賀大・農）

ポスター発表 | 後半B

日時 | 11月28日午後(13:00-17:30)と29日午前(09:00-12:00)

場所 | B会場 (3階 特別会議室)

- B2-01 それにしてもこの女王、ノリノリである。ホクダイコハナバチの繁殖虫性比
○八木議大・長谷川英祐 (北大院・農・生物生態体系)
- B2-02 自然界で最大のハレムを支配するのはシロアリの王
○松浦健二 (岡山大院・環境)
- B2-03 トゲオオハリアリのワーカーは女王の卵から女王の存在の有無を知る事ができるか？
○下地博之 (琉球大)・藤木悠里 (京工織)・辻和希 (琉球大)・山岡亮平 (京工織)
- B2-04 オスによるクローン増殖と女王の翅多型
○小林和也 (北大・農・動物生態)
- B2-05 アミメアリにおける他コロニー個体との共存が巣仲間認識に与える影響
○西出雄大・佐藤俊幸・岩淵喜久男 (東京農工大学・農)
- B2-06 複数レベル淘汰モデルで考察するアミメアリの社会行動
○早坂脩平・廣田忠雄 (山形大・理・生物)
- B2-07 アリの巣仲間認識フェロモンはいくつ必要なのだろうか
○都丸雅敏 (京工織大)
- B2-08 多女王の進化におけるワーカーの役割
○白戸亮吉 (山形大)・佐藤俊幸 (農工大)・廣田忠雄 (山形大)
- B2-09 劣位個体は優位個体になれるのか？～協同繁殖する魚類の生活史戦略～
○安房田智司 (中央水研)・堀道雄 (京大・院理)・幸田正典 (大阪市大・院理)
- B2-10 アブラコウモリ (*Pipistrellus abramus*) 出産・哺育コロニー内の平均血縁度は高いか？
○安藤陽子 (東京農工大院・連農・野生動物保護)・須田知樹 (立正大・地球環境科学・森林生態)・田村常雄 (コウモリの会)・佐藤俊幸 (東京農工大・農・動物行動)
- B2-11 飼育下スナメリの接触を伴う社会行動
○野口加耶子 (東工大生命理工)・吉田弥生 (京大野生動物研究センター)・酒井麻衣 (東大生命科学ネットワーク)・岡村博美 (宮島水族館)・石橋敏章 (しものせき水族館)・高田浩二 (海の中道海洋生態科学館)・幸島司郎 (京大野生動物研究センター)
- B2-12 真社会性ハダカデバネズミにおける集団的意思決定：ワーカーを間接的に操る女王
○沓掛展之 (総研大・葉山, 理研 BSI)・稲田正幸 (理研 BSI)・岡ノ谷一夫 (理研 BSI)
- B2-13 ヒトにみられる利他性に影響する要因
○小田亮 (名古屋工業大学)・平石界 (京都大学)・福地剛志・松本晶子 (沖縄大学)
- B2-14 ベニツチカメムシの給餌音の機能について
○野間口真太郎・高比良綾子・柳孝夫 (佐賀大)・馬場成美 (九州大)・弘中満太郎 (浜松医科大)・Lisa Filippi (Hofstra Univ.)
- B2-15 聴覚記憶による性的刷り込みが歌鳥メスの産卵投資へおよぼす影響
○相馬雅代 (総研大・葉山高等研, 理研・BSI)・長谷川真理子 (総研大・葉山高等研)・岡ノ谷一夫 (理研・BSI)
- B2-16 ジュウシマツおよびコシジロキンパラにおける糞中ステロイドホルモンの測定
○鈴木研太^{1,2}・山田裕子^{1,3}・小林哲也²・岡ノ谷一夫¹ (1 理研・BSI・生物言語, 2 埼玉大・院・理工, 3 東京海洋大)

- B2-17 **ネコは声だけで飼い主がわかるか？**
○齋藤慈子（東京大学）
- B2-18 **オオカミの顔の色彩パターンとその役割 –イヌ科動物の比較から–**
○植田彩容子（東工大）・幸島司郎（京大・野生研）
- B2-19 **アカボシゴマダラ *Hestina assimilis* の蛹化，羽化に関する研究**
石井 学（佼成学園中学高等学校）・○長澤 亮（佼成学園高等学校）
- B2-20 **視覚的経験はニワトリ初生雛の生得的な BM 嗜好性を強化する**
○三浦桃子（北大）・Giorgio Vallortigara (Univ. Trento)・Lucia Regolin (Univ. Padova)・松島俊也（北大）
- B2-21 **飼育下におけるキツネザルの日周行動**
○砂場夏希（東農大）・宗近 功（進化研）
- B2-22 **目立つべきか目立たざるべきか -クモの網の隠れ帯における、捕食者・餌との遭遇経験と信号強度の関係**
○中田兼介（東京経済大学）
- B2-23 **林内のギャップにおいて示されるノシメトンボの採餌活動**
○加藤賢太・渡辺 守（筑波大・生物）
- B2-24 **ねぐらから採集したペリットによるカラスの食性の季節変化**
○渡邊 絵・中村浩志（信大・教育・生態研）
- B2-25 **ミツバチ蜂群に飛来するクロメンガタスズメは盗蜜を目的にしているのか**
○吉田忠晴（玉川大学・ミツバチ科学）・坂元吉守（指宿市）
- B2-26 **野生ニホンザルオスにおける採食場所と採食品目選択への社会的影響**
○松原 幹（京都大・霊長研）
- B2-27 **イヌガラシの株の形態に依存した昆虫類の相互関係**
○堀 翔・渡辺 守（筑波大・生物）
- B2-28 **ウナギはどこへ行く？ 肥満したウナギと痩せたウナギの違い**
井上知成・井上誠大・○高木俊祐・赤川 泉（東海大海洋）
- B2-29 **放鳥されたトキの野外の採餌行動パターン**
○遠藤千尋（新潟大・自然）・永田尚志（新潟大・超域）
- B2-30 **2-3 個の目標を設けた PC 画面上の巡回セールスマン問題における、ハトの経路方略**
○宮田裕光（京都大学，現：日本学術振興会）・藤田和生（京都大学）
- B2-31 **日本の寒冷地のタヌキは冬をどう越すか？**
○關 義和（農工大・院）・小金澤正昭（宇都宮大）
- B2-32 **野生コウモリの採餌飛行時における獲物探索戦略 -3 次元飛行軌跡とソナー音声の同時計測-**
○藤岡慧明・松田直大・飛龍志津子・力丸 裕・渡辺好章（同志社大学）
- B2-33 **トノサマバッタ孵化幼虫の相変異：活動性と集合性に母性効果は見られるか？**
○原野健一・田中誠二（農生研・バッタ研究室）・渡 康彦・齋藤 治（芦屋大・臨床教育）
- B2-34 **群れ間闘争の数理モデル --たたかう？ にげる？ ようすをみる？**
○上原隆司・加藤直子・瀧川裕貴・佐々木 颯（総研大）
- B2-35 **ベニシジミの雌におけるハラメント回避と体温調節の対立**
○井出純哉（京都大学）
- B2-36 **勝ち抜き型の共倒れ**
○真野浩行（環境研）・石田健太郎（神戸植防）・徳永幸彦（筑波大）
- B2-37 **技は力を凌駕する？**
○本郷儀人（京大・理・動物行動）

- B2-38 異なるサイズの水域で繁殖する蚊 2 種に与える捕食者の効果**
○大庭伸也（長崎大・熱研）・大塚雅和（長崎大・医・医）・高木正洋（長崎大・熱研）
- B2-39 ニホンカワトンボの翅色多型と捕食リスク：セキレイによる大量捕食は多型比率に影響するか？**
○椿 宜高（京大生態研セ）
- B2-40 人工的なヨシ群落の成長に伴うヒメマイトトンボ成虫の行動のレパートリーの変化**
○寺本悠子・渡辺 守（筑波大・生命環境）
- B2-41 黄ウナギと銀ウナギの行動学的な違い**
○須藤竜介・青山 潤・塚本勝巳（東大海洋研）
- B2-42 釣りのアマゴへの影響 -釣り人による攪乱の効果-**
○山本裕典・原田泰志（三重大院生資）

参加者一覧

(事前申込者, 五十音順)

A・B：ポスター, V：映像紹介, R：ラウンドテーブル

懇 氏 名	所 属	講演番号
○ ARNETT Amy Rose	琉球大院・理工・海洋自然	B1-19
○ 青木真知子	東海大学・海洋学・水産学	A2-23
○ 安部 淳	静岡大学・農学部	A2-02
○ 阿部真人	東京大・総合文化・広域科学	A1-21
○ 安房田智司	中央水産研・内水面・生態学保全	B2-09
○ 安藤陽子	東京農工大・連合農学・野生動物	B2-10
○ 池田 譲	琉球大・理・海洋自然	B1-08, B1-09, B1-19
○ 池淵万季	ERATO 岡ノ谷情動情報プロジェクト	B1-10
○ 伊澤栄一	慶應義塾大学社会学研究科	A1-18, B1-15, B1-24
○ 石井 学	佼成学園中学高等学校	B2-19
石野慎二	同志社大・生命医・生命医科学	B1-16
磯村成利	総合研究大学院・先導科学	B1-41
○ 一方井祐子	慶應義塾大学社会学研究科	A1-18
○ 井出純哉	京都大・理・動物生態学	B2-35
伊藤宗彦	早稲田大学	
稲田正幸	理化学研・BSI・生物言語	B2-12
稲田喜信	宇宙航空研究開発機構	
井上英治	京都大・理・動物学教室	A1-19
○ 井上 真	ソニー(株)技術戦略部	
○ 植田彩容子	東京工業大学・生命理工学	B2-18
○ 上原隆司	総研大・葉山高等研	B2-34
○ 植松圭吾	東大院・総合文化・広域システム	B1-04
蛭原香理	新潟大・自然	
○ 遠藤千尋	新潟大・自然	B2-29
○ 大西義浩	鹿児島大学・連合農学研究科	B1-39
○ 大庭伸也	長崎大学熱帯医学研究所	B2-38
○ 岡崎宏美	東海大学・海洋学・水産学	B1-20
岡本光平	京都大学	
○ 奥 圭子	農研機構・中央農業総研	A2-13
○ 奥野正樹	京大・農・応用生物・昆虫生態	B1-12
○ 小田 亮	名古屋工業大学・工学研究科	B2-13
○ Omar Myint	大阪市立大学・理・動物社会	A1-29, A2-19
○ 恩田裕太	筑波大・院・生命環境	A1-22
○ 戒能洋一	筑波大学生命環境科学研究科	
○ 香川紘子	理研・BSI, 東大・総合文化	B1-13
○ 鹿島 傑	広島大学・生物圏科学	A1-16

○	粕谷英一	九州大学理学部生物学教室	A2-01, A2-20, A2-21, B1-37
○	香月雅子	岡大院・環境	A1-12
○	加藤賢太	筑波大・生物	B2-23
○	角田羊平	京大・理・生物・動物・動物行動	B1-23
○	金澤美季	北海道大学農学院社会生物	A1-25
○	兼子隆士	長崎大学・生産科学	A1-14
○	金友勇馬	広島大学・生物圏科学・生物資源	A1-24
○	狩野文浩	京都大学霊長類研究所	B1-17
○	狩野賢司	東京学芸大学	A1-23, A2-03, A2-08
○	川口利奈	九州大学理学研究院	B1-33
	川崎建次郎	農業生物資源研究所	
○	川津一隆	京大院・農・昆虫生態	A1-03
○	木原聡美	東京海洋大学	A1-15, A1-17
	草間淑之	新潟大・教育	B1-06, B1-07
	楠本華織	北大・農	A2-30
	久世濃子	京都大学野生動物研究センター	V-7
○	杳掛展之	総合研究大学院大学・葉山	A1-28, B2-12
○	工藤起来	新潟大・教育・昆虫生態	A2-15, B1-05, B1-06, B1-07
○	工藤慎一	鳴門教育大学・学校教育	A1-11, A2-27
○	工藤宏美	東京学芸大学	A2-08
	糸井康宏	東京医科歯科大学	B1-35
○	久米 学	土木研究所自然共生研究センター	A1-07
○	栗和田 隆	沖縄県病害虫防除技術センター	A1-01
○	桑村哲生	中京大学国際教養学部	
○	小汐千春	鳴門教育大学	A1-11
	児玉雅章	東京都葛西臨海水族園	
○	小林和也	北海道大学農学院動物生態	B2-04
○	小林耕太	同志社大学生命医科学部	B1-16, B1-43
○	小林 哲	佐賀大学農学部	A2-11
○	小林紀絵	新潟大・教育	A2-15, B1-05
○	小松一磨	新潟大・教育	A2-15, B1-05
○	近藤紀子	慶應義塾大・社会学	B1-15
	齋藤慈子	東京大学大学院総合文化研究科	B2-17
	齋藤毅一郎	北大・農・環境資源・昆虫体系	A1-04
○	境田紗知子	東京海洋大・魚類行動生態	A2-17
○	坂井陽一	広島大学・生物圏科学	A1-16, A1-24, A2-18, A2-26, A2-29
○	坂本亮太	岐阜大学大学院 多様性保全学	B1-40
○	佐々木那由太	筑波大・院・生命環境	A1-13
○	佐藤 綾	東京学芸大学・連合学校教育学	A1-23
○	佐藤俊幸	東京農工大・農・獣医・動物行動	B2-05, B2-08, B2-10
○	佐藤成祥	北海道大学環境科学院	V-3

○ 佐藤幸恵	農業環境技術研究所	A2-07
○ 佐藤芳文	京都医療科学大学	
佐山勝彦	森林総合研究所北海道支所	
○ 澤田紘太	総合研究大学院・先導科学	A2-25
品川千種	会社員	
○ 清水庄太	東京海洋大学・魚類行動生態	A1-15, A1-17
下地博之	琉球大学・農学部	B2-03
○ 白井明日華	新潟大学	B1-06, B1-07
白戸亮吉	山形大学大学院理工学研究科	B2-08
○ 杉本親要	琉球大学・理工・海洋環境学	B1-09
○ 洲崎 雄	岡山大院・環境・進化生態	A2-14
○ 鈴木研太	埼玉大学・理工, 理研・生物言語	B2-16
○ 鈴木誠治	長岡技術科学大学	A1-27
○ 須田大祐	筑波大・院・生命環境	A2-22
須藤竜介	東京大学海洋研究所	B2-41
○ 須之部友基	東京海洋大学館山ステーション	A1-15, A1-17, A2-24
住友宏幸	山形大学・理工学・生物学	A2-16
○ 関澤彩眞	大阪市立大学大学院理学研究科	A1-10
○ 関 元秀	東大院・理・生物	B1-01
關 義和	東京農工大・連合農学研究科	B2-31
○ 相馬雅代	総研大・葉山高等研, 理研・BSI	A2-10, B2-15
○ 曾我部篤	広島大学・生物圏科学	A1-08
高木俊祐	東海大学・海洋・海洋生物	B2-28
高津英夫	愛知ホタルの会	A1-06
○ 高橋弘明	筑波大学第二学群生物学類	B1-25
○ 高橋佑磨	筑波大・院・生命環境	A2-06
○ 滝 若菜	筑波大・院・生命環境	B1-21
○ 竹内 剛	広島大学・生物圏科学	B1-34
竹垣 毅	長崎大学大学院生産科学研究科	A1-14, A2-09
○ 田島裕介	筑波大・生命環境	A2-04
○ 多田紘一郎	北大・農・環境資源・動物生態	B1-03
○ 立田委久子	総合研究大学院・先導科, 理研	A1-28
○ 田中啓太	理研 BSI, 学振 PD	A2-27, V-4
○ 田中豊人	東京都健康安全研・環境保健部	B1-30
○ 田辺晶史	筑波大学・生命環境科学	
○ 種田耕二	高知大学・理学部・生物	B1-29
堤 健吾	東海大学海洋学部	B1-26
○ 椿 宜高	京都大学生態学研究センター	B2-39
○ 坪井美由紀	広島大学生物圏科学研究科	A2-18
○ 寺本悠子	筑波大学・生命環境科学	B2-40
○ 徳永幸彦	筑波大学生命共存科学専攻	A1-12, A1-30, B1-33, B2-36

○	土畑重人	東京大学大学院総合文化研究科	R-2
○	都丸雅敏	京都工繊大・ショウジョウバエ	B2-07
	富永英之	福井県立武生高等学校	V-1
○	富菜雄介	北大・生命科学院・生命システム	B1-42
○	中嶋康裕	日大・経済・教養生物	A1-10, A2-25, R-1
○	中嶋祐二	京大・農・昆虫生態	A1-20
○	中田兼介	東京経済大学	B2-22
○	中村和喜	広島大学	A2-26
○	中山 慧	岡山大学大学院環境学研究科	A1-05, B1-28, B1-36
	棗田孝晴	千葉科学大学・危機管理学部	B1-22
○	西出雄大	東京農工大学・農	B2-05
○	野口加耶子	東京工業大学生命理工学研究科	B2-11
○	野間口真太郎	佐賀大学農学部	A1-26, B2-14
	野間野史明	北海道大学環境科学院	B1-38
	長谷川 愛	東京大学大学院総合文化研究科	A2-10
○	長谷川英祐	北海道大・農学研究院・動物生態	B1-02, B1-03, B2-01
○	長谷川 克	筑波大学生命環境科学研究科	A1-09
○	馬場成実	九州大・生物資源環境・天敵昆虫	A2-27, A2-28, B2-14
	濱尾章二	国立科学博物館附属自然教育園	B1-14
○	原野健一	農生研・バッタ研究室	B2-33
○	原野智広	九州大学・理・生物・生態科学	A1-05
○	平山寛之	九州大学・理・生物・生態科学	A2-21
○	廣田忠雄	山形大学 理学部 生物学科	A2-16, B2-08, B2-06
○	弘中満太郎	浜松医科大学・医学部・生物学	A1-26, A2-27, A2-28, B2-14
○	藤岡慧明	同志社大学	B2-32
○	藤岡正博	筑波大学・生命環境科学研究科	
○	星 真大	茨城大学・理工学・自然史	
○	堀 翔	筑波大・生物	B2-27
	堀木美告	行徳野鳥観察舎友の会	
	堀部直人	東京大学大学院総合文化研究科	B1-27
○	本郷儀人	京大・理・動物学・動物行動	B2-37
	前田太郎	農業生物資源研究所	
○	益子美由希	筑波大学・生命共存科学	A1-30
○	松浦健二	岡山大学・環境学・昆虫生態	B2-02
	松岡暢宏	放送大学大学院文化科学研究科	
○	松原 幹	京都大・霊長研・生態保全分野	B2-26
	松本晶子	沖縄大学人文学部	B1-11, B2-13, R-4
○	松本有記雄	長崎大学・生産科学研究科	A2-09
○	真野浩行	国立環境研・生態リスク評価研	B2-36
○	三浦桃子	北海道大学理学部生物科学科	B2-20
○	湊 秋作	キープやまねミュージアム	V-6

○ 宮竹貴久	岡山大学大学院環境学研究科	A1-05, A1-12, A2-14, B1-28, B1-36
宮田裕光	慶應義塾大学文学部	B2-30
○ 宮野伸也	千葉県立中央博物館	
○ 向井裕美	佐賀大・農	A1-26, A2-27
宗近 功	(財)進化生物学研究所	B2-21
○ 村中 優	広島大学生物生産学部	A2-29
○ 門司麻衣子	京都大・理・動物行動学	A2-05
○ 守屋伸生	京大・農・昆虫生態	B1-31
○ 森 貴久	帝京科学大・生命環境	V-5
○ 八木議大	北海道大学院・農・生物生態体系	B2-01
○ 安井行雄	香川大学農学部昆虫学研究室	
○ 安田裕樹	大阪市立大学・理・生物地球系	A1-29, A2-19
柳堀直子	慶應義塾大学社会学研究科	B1-24
○ 山内 淳	京都大学生態学研究センター	A1-02
○ 山口 剛	千葉県立中央博物館	B1-18
○ 山口勇氣	新潟大学・教育	A2-15, B1-05
○ 山崎彩夏	東京農工大学連合農学研究科	V-7
山本宇彦	九州大学・理・生態科学	A2-20, R-3
○ 山本裕典	三重大学・生物資源学	B2-42
吉田忠晴	玉川大学ミツバチ科学研	B2-25
吉田葉月	なし	
○ 吉村友里	九州大・システム生命・生態科学	B1-37
リングホーファー 萌奈美	東大・総合文化	B1-32
○ 渡井幹雄	東京海洋大学・水圏科学・館山	A2-24
渡邊 絵	信州大学教育学部生態学研究室	B2-24
○ 渡部 宏	近畿大学	A2-12
○ 渡辺 守	筑波大学生物科学系	A1-09, A1-13, A1-22, A2-04, A2-06, A2-22, B1-21, B1-25, B2-23, B2-27, B2-40

大会実行委員会

実行委員長 | 渡辺 守

庶務 | 腰塚昭温・滝 若菜・須田大祐

プログラム | 藤岡正博・長谷川 克・高橋佑磨・諸澤崇裕

会計 | 戒能洋一・羽生和史・佐々木那由太・藤沼正博

ウェブ | 徳永幸彦・田島裕介・恩田裕太・土屋 結・豊田大輔

懇親会 | 戒能洋一・寺本悠子・川畑恭介・富永 光

編集デザイン | 高橋佑磨